

未来に輝け！！ ところわかの海

“全国アマモサミット 2017 in 伊勢志摩 “ 大会宣言

私たちは、全国アマモサミット 2017 in 伊勢志摩を通じて、伊勢志摩には、伊勢湾から熊野灘に面した外洋へと続く沿岸に様々な藻場があり、そこで育まれた魚介や海藻など様々な海の恵みが、約二千年前から近代までの歴史のなかでも、地元の人々や時の都人、さらには神宮の神々の食を支え、暮らしを支えてきたことを学びました。そして、伊勢志摩の「資源」とは、この地域の中で育まれてきた私たちの文化であり、多様な資源が存在し季節ごとに移り変わる自然が「豊かさ」であると気が付きました。同時に伊勢志摩では、アマモ場の減少、海中林の磯焼けにともなって、「豊か」だった「資源」の持続性が脅かされています。

しかし、漁師や海女の生業や、観光だけでなく海の学びを実践できる恵まれた海は、まだまだ残されています。全国では、大人も若者も子どもたちもそれぞれの立場で、様々な困難を乗り越え、課題を解決しながら藻場の再生や海のまちづくり、ブランド化、市民参加の活動が続けられており、徐々に成果が得られることで、単純な労働作業を越えた楽しさ、多くの人々の繋がりにも発展していることも教えていただきました。

私たちは、ここ伊勢志摩で、いつまでも漁師や海女が活躍し、その誇りである海産物に人々が舌鼓を打ち、海の恵みで輝く生活や文化が引き継がれることを願います。そして、若者たち子どもたちにとって様々な学びを得られる場であり続けて欲しいと心から思います。また、同じ想いと願いを全国の皆で共有できたことをとても心強く感じています。

伊勢志摩の豊かな資源を取り戻すために、ここに住む人々が藻場の大切さや「資源」「豊かさ」を知り、主体的・積極的に活動し、日本全国の想いと願いを共有する人々も含め、地域や異なる主体が連携して活動を発展させることについて認識、理解を深め、より良い環境や社会を引き継ぐための「新しい里海の創生」の方向性を見出します。それは、直接的には漁業の再生といった成果を期待するものでありますが、伊勢志摩の豊かな文化を担う次世代の若者たちとともに、「ところわかの海」を手に入れ未来に輝くために必要不可欠な取り組みです。

すなわち、アマモ場再生にとどまらず、オール伊勢志摩で地域活性や環境保全を目指す取り組みを発展させ、全国の皆でこれを応援していかなければなりません。

私たちは、今回の全国アマモサミット 2017in 伊勢志摩を契機として、以下のことに取り組んでいきます。

1つ、市民・事業者が広く、アマモの大切さや現状を認識し、自分のことと
感じ、楽しく再生に関われる機会を持てるよう、

1つ、ここに集まった中学生・高校生は、未来ある若者として、この出会い
を一過性のものとせず大切に、

- ・自分から課題を見つけ、常識にとらわれない若者ならではの独自の発想
を持ち、その課題を自分の事として解決できる力を身につけます。
- ・大人からの意見をしっかりと受け継ぎつつ、未来に活動を繋げ、若者と
しての意見を社会に訴え続けます。

1つ、学校は、子どもたちの自主的な発想や学びを尊重し、子どもたちが海
への理解を高め、触れ合う活動ができる機会を等しく与え、カリキュラム
を工夫し、

1つ、漁業者は、いつまでも利用できる海の再生を主体的に担い、

1つ、研究者は、水質が悪くなった原因の把握に努め、

1つ、行政は、そうして把握された状況を踏まえての取組みを検討し、

1つ、そのために、何をすべきかを皆で考え、連携して実行に移していく仕
組みを手に入れます。

そして、全国の海に育まれる人々とのつながりの中で「未来に輝け！！
とこわか海」を実現し、次世代の子どもたちに今よりも良い環境を引き継い
でいくことをここに宣言します。

2017年11月12日

全国アマモサミット 2017 in 伊勢志摩参加者一同
全国アマモサミット 2017 in 伊勢志摩実行委員会一同

とこわか海、伊勢志摩の地にて

